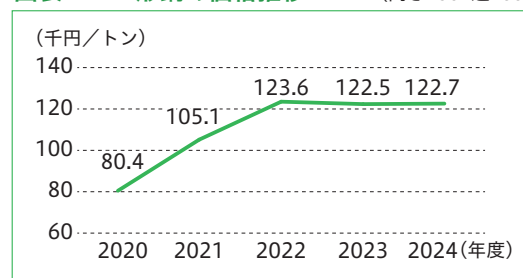


地元建設業者への 融資提案メソッド

図表1 H形鋼の価格推移 (高さ200×辺100)



(出所) 日刊産業新聞のデータを基に筆者加工

H 形鋼は断面が「H」の形をした強度と剛性に優れている鋼材で、ビルや工場の柱・梁、橋や港湾施設など、多様な構造物に使用されている。精度の高い加工が可能で、工期短縮や耐震性の向上に貢献し、建設現場の効率化にも寄与する。

1 H形鋼

強度と剛性に優れ
多様な構造物で使用

JIS規格により寸法や性能が標準化されているため、安定した品質と供給が確保できる点も特徴といえる。

価格再上昇の可能性も

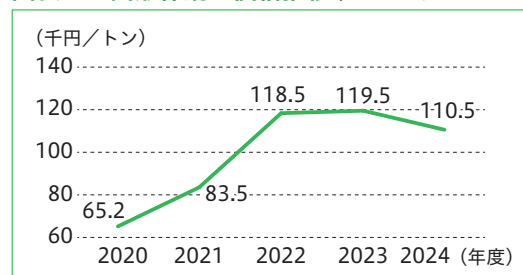
〈価格動向と背景〉

H形鋼の価格は、鉄鉱石や原料炭の高騰、建設需要、ウクライナ情勢、円安などの影響で高止まりしてきた。現在は横ばい傾向にあるが、今後の国際情勢や原材料価格、物流コストの動向によっては再上昇の可能性もある。

〈今後の見通し〉

H形鋼は建設需要や市況に左右されやすいうえ、特に鉄骨工事のコスト構造に直結する。金融機関の担当者が注視すべき、重要な価格指標の一つだといえる。

図表2 異形棒鋼の価格推移 (SD295D、D16～D25)



(出所) 日刊産業新聞のデータを基に筆者加工

異 形棒鋼は鉄筋コンクリート構造物に使用される補強材で、表面に施されたリブによりコンクリートとの付着力を高めている。一般的には「鉄筋」と呼ばれ、ビル・橋梁・擁壁・トンネルなど、広範なRC構造物に不可欠な材料だ。

2 異形棒鋼

コンクリートとの
不着力を高めた補強材

〈価格動向と背景〉

異形棒鋼価格は、鉄鉱石や鉄スクラップ、電力コストなどの影響を大きく受ける。スクラップ価格の高騰や電力費の上昇により、近年は価格が上昇基調にあったものの、2023年～2024年は住宅着工数の減少に伴い一時的に弱含みした。

審査上の重要資材の一つ

〈今後の見通し〉

今後は老朽化インフラの更新や防災対応など、公共工事の需要が異形棒鋼価格を下支えすると見込まれる。異形棒鋼は鉄筋コンクリート構造のコストに直結するため、建設事業の採算性や金融機関による審査上でも注視すべき重要資材の一つである。

訪問前に知っておきたい

主要建設資材の 基礎知識と価格動向

伊能賢一

東京都営力向上センター取締役会長／
中小企業診断士／社会保険労務士

ここでは建設資材の価格動向について、背景を押さえたうえで、各資材に分けて紹介する。

中国不動産市場の動向が 今後の重要な変動要因に

近 年、建設資材価格は高騰と高止まりが続いている。

原材料費、エネルギーコスト、為替に加え、世界最大の建設市場である中国不動産市場の崩壊が新たな影響要因となりつつある。

金融機関の担当者としては、資材価格変動の背景と見通しを理解し、建設業界の与信判断に活かす視点が求められる。

資材価格高騰の背景には、コロナ後の世界経済回復による資材需給ひっ迫とエネルギー価格高騰がある。2021年以降は、鉄鉱石、石炭、原油、木材などの原材料価格が上昇している。

2022年のロシアのウクライナ侵攻で欧州のエネルギー

供給が混乱し、石炭やLNG価格は高止まりしている。セメントや鉄鋼など、エネルギー多消費型資材のコストが押し上げられた形だ。円安も輸入資材の国内価格上昇に拍車をかけている。

鋼材系資材は下押し 圧力が続く見込み

中国では、不動産市場の崩壊により住宅着工が急減。国内建設用鋼材需要が縮小し、余剰鋼材が東アジア市場に流出している。日本市場にも安値で流入しつつあり、鉄鋼系資材には今後下押し圧力がかかると思われる。

ため、急落には至らず、緩やかな調整にとどまる可能性が高い。

国内では、物流倉庫やデータセンター需要が堅調に推移している。住宅着工は減速しているが、国土強靱化や老朽インフラ更新需要が資材需給を支えている。施工現場の人手不足も、資材価格の急激な緩和を防ぐ一因となっているようだ。

今後の資材価格は、①原材料の価格動向、②エネルギーコスト、③為替、④中国鋼材輸出の動向がカギとなる。鋼材系資材は下押し圧力が続く一方、セメントや生コンクリートはコスト高が価格に転嫁され、高止まり傾向が継続する見通しだ。

建設資材価格は、国際情勢や国内需給、政策の影響を受けて動いている。特に中国不動産市場の動向は、今後の重要な変動要因となる。